

「就職活動はネットだけに頼らず、もっと他にできることがあるはず」――。ジャーナリストの石渡嶺司氏＝写真右＝が2月12日、大阪・梅田で開かれた「業界研究カフェテリア」のオープニングセミナーで「ネット就活の限界」と題し講演した。石渡氏は「大事なのは就活本などのマニュアルに頼りすぎないこと。銀行などの金融なら支店を、住宅メーカーなら住宅展示場を訪れ、就活生自らが考え、行動することだ」と訴えた。

「職業選択、就活生は自ら考え行動を」

石渡氏は「就活のバカヤロ」などの著者で、大手新聞にも連載を持つジャーナリスト。講演の主な要旨は次の通り。

大手の会社説明会のネット予約はすぐ満席になる。大学名で選別しているともいわれるが、それで参加を諦めていないか。（石渡氏自身）直接電話した上で会社訪問し、内定を得た経験がある。実際にその方法で内定を得た就活生もいる。方法は簡単。たった一本、電話を掛けるだけで。

会社の人と話すことにもなり、自発性や行動力が身につく。要は言われなくても、やることとが大切だ。例えば、銀行などの金融なら支店訪問。アパレルなら店舗を訪れ、実際に服を買う。住宅メーカーなら

住宅展示場を訪れる。大事なのは就活本などマニュアルに頼りすぎないこと。就活本には優秀な学生の話が書かれており「自分は平凡で普通だから」と思う人が圧倒的だが、全く問題ない。

◆「自己分析」 就活がうまくいく人といかない人の差は何か。それは結果の捉え方だ。うまくいかない人は、自己分析の結果にこだわり過ぎ、その方向にだけ目を向けてしまふ。このため、知らない業

面接やES 「話を盛らず頑張ったこと話そう」



業界カフェに275人 職業経験の浅い若者に各業界出身のジョブサポーターが仕事内容や採用の勘所を話す「業界研究カフェテリア」が2月12日、大阪・梅田で開かれ、275人が参加。百貨店や航空など13業界について理解を深めた。

て欲しい。8人が参加し自己紹介の時間は2分としよう。一人あたりの持ち時間はわずか15秒だ。短時間に要領よく話せるか、時間管理が出来るかどうか。計算できれば対処は可能だ。性格検査は素の自

分で挑むこと。

◆面接 自分を大きく見せようと話を盛る傾向があるので、止めて欲しい。自分自身のこと、学生時代に頑張ったことをしっかりと話そう。何をどうしたのか、どうしてそれを続けられたのか、何が楽しかったのか。そういう話を聞きたい。

面接で自己PRや志望動機を聞かない企業が増えている。理由の3分の1は「各自の差がなくあまり意味がない」。

3分の1は「意味がない」と思いつつ聞かないと学生が不安になるから聞か、聞き流す。残り3分の1は「判断材料にする」。よくあるのは、聞かれてもいないことを合わせて語り出すケース。頑張ったことを尋ねているのに、わざわざ自己PRを加え、かえって人物像を見えなくしている。

面接官は「秩序を守れない人ではないか」と思い不採用にする。面接では聞かれたことに対し、ていねいにしっかりと答えることだ。（3面に続く）

「ネット就活の限界」石渡さん講演

業界カフェ

学ハロ大阪新聞

発行所
厚生労働省 大阪労働局
大阪新卒応援ハローワーク
〒530-0017
大阪市北区角田町8-47
阪急グランドビル18階
TEL 06-7709-9455
FAX 06-7709-9458
<http://osaka-young.site.mhlw.go.jp>

第17号

2015年3月17日



大阪新卒応援ハローワーク



- 2 くるみん企業 阪急電鉄
- 4 就職活動日記 学校事務職へ志願く



「育児を終えても長く勤められる会社を探しているが何を参考にすればいいの?」。就活生からよく聞く言葉だ。そんな時は「くるみん取得企業」を調べて欲しい。「くるみん」は子育てと仕事を両立しやすい「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けたマークだ。今回は阪急電鉄に取得の経緯や社内施策について話を聞いた。

阪急電鉄

育児・介護充実で現業職の女性、生き生きと

大阪キタの玄関口、阪急電鉄梅田駅。1日当たり52万人が乗り降りする私鉄最大のターミナルだ。神戸、宝塚、京都へ向かう10面9線のホームが平行に並び「阪急マルーン」と



呼ばれる茶色の気品ある電車が絶え間なく滑り込んでいく。

同社が「くるみん」取得に向け行動計画の策定を始めたのは2005年。次世代育成支援対策推進法（次世代法）がきっかけだ。2007年には人事制度の改定の一環として育児・介護休業が取得しやすいようにファミリーフレンドリー施策を充実させた。

「育児休業は3歳まで延長した。期間中は複数回、取得できるよう配慮した。事務職の短縮勤務も小学3年までに拡充した」と人事部の労務担当者。特に介護休業については、2014年4月からトータルで3年、複数回の取得が可能になった。今後、訪れる高齢化社会の影響を見据えた措置だ、という。

「介護は終わりが見えず、期間を限定してひと固まりで取得することを前提とした休業制度では対応が難しい面もある。短期間で繰り返し介護する事例もあると聞く。必要な時に複数回、取得できれば制度がより使いやすくなるのではないか」と制度導入の狙いを明かす。

同社の根幹である鉄道事業を担うのは運輸現業職だ。運転士や車掌、駅での勤務などお客様とも直接、関わる。その中でも駅勤務の基本的な勤務時間は午前8時から翌日の午前

8時まで。仮眠の時間はあるものの24時間勤務が基本となる。

「人と接し、お客様に寄り添う仕事をやってみたくて。入社すると約1ヵ月間の机上研修があり、その後、現場での泊まり勤務が始まります。当時は朝、起きられなかったらどうしようと。緊張で気も張っていました。でも段々とその生活リズムに慣れてくるようになります」と振り返るのは、現業職採用担当の女性社員。女性社員の比率は全体で1割ほど。



鉄道会社＝男性中心の会社?とのイメージもあるが、将来は女性が駅長や助役として活躍する日も来るだろう。「将来に向け長く勤めてもらうにはやはり、育児・介護などのサポート体制をいかに充実させるかが鍵となる」と人事部の労務担当者は期待を寄せる。

また「勤務が明けたその日は非番だから一日中、子どもと一緒にいられるよ。一日置きに子どもと家でゆっくりと過ごせるので、交替制勤務にもメリットがある」という先輩女性社員の話は、苦勞を乗り越えた経験から非常に参考になるという。運輸現業部門でも、いよいよ来月から限定的ではあるが、短縮勤務が導入さ

れる。労務担当者は「運輸現業のようなシフト勤務の職場で、希望通りの短縮勤務をするのは難しい。会社もできる限りサポートしたいが、育児や介護と仕事を両立するには、社員同士の相互理解や家族の協力も大切になる」と強調する。

一方「くるみん」の取得について、会社に対する学生側の反応はどうか。

「会社説明会のブースに『くるみんマーク』を張るなど広報に務めているが、学生にはまだまだ浸透していないようだ。例えば企業選びの際、就活サイトなどで、くるみんの取得企業かどうかをボタン一つで簡単にチェックできるような機能があれば、学生の関心も高まるのでは」と提言する。

平成27年度採用については、企業側の広報活動が始まった。今年も例年通り、学内セミナーや会社説明会を中心に採用活動を進める方向という。

現場を熟知する現業職の採用担当者は「運輸部門はチームワークが求められる仕事。共に働く社員同士でコミュニケーションがうまく取れるか。お客様が声を掛けやすく、相手の目線や立場に立って対応できる人柄か、そういった点もよく見ている」



とした上で「鉄道の運行はルールを守る、というのが大原則。先輩の教えや現場での仕事の流儀を、素直に受け止められるか、大切な要素だと思う」と指摘する。

「安心・快適・夢・感動」というグループの経営理念が、現場を支える社風として息づいている。

会社の支援と家族の協力、何よりも大切に

先輩の教え、仕事の流儀素直に受け止めて

石渡さん講演

◆エントリーシート (ES)

素の自分をそのまま書けばよい。背伸びして内容を膨らませる傾向があるがその必要はない。「面接すればすぐに分かる。サークルの部長でなくても、アルバイトのリーダーでなくてもよい。そのようなアピールはむしろ、採用担当者をつんざきさせる。

◆グループディスカッション (GD)

面接の変化球だ。意見を対立させ、言い負かすものではないことをまず押さえて欲しい。メンバーは初めて顔を合わせる。うまくいくはずがないことを前提に臨もう。場合によっては全員不採用になることもある。よくあるケースは「周りの学生がすご過ぎて話せない。どうしたらよいか」。ポイントは3つだ。①沈黙よりは、自分はよく分かっていることを周りに伝えよう。例えば、論点が対立していたとする。すかさず「ちよつといい。みんなそ

れぞれいい意見だと思つ。だけれどよく理解できないんだけど、論点を一度整理してみないか」と言えばOKの定義を確認すること。論点がずれたまま、話けが盛り上がるケースがある。そんな時は「最初の定義はこうだったよね」と言ってみる③時間管理をきつ

拡大版RMB、日本一企業研究会：

就活生、まなざし真剣



就活集中支援期間の2月か

ら3月にかけて大阪新卒応援ハローワークなどは大阪・梅田で就職面接会など多彩なイベントを実施し、多くの就活生が意中の企業へ真剣なまな

ちり。GDにタイムマネジメントは重要だ。例えば、発表まで含めて制限時間が1時間とする。自己紹介・ディスカッションから発表までの時間配分を考え「あ、時間大丈夫かな」と口火を切る。うまく話せない人がいるなら、上手にボールを投げてあげる。

ざしで臨んだ。

拡大版のレギュラーマッチングブース (RMB) 説明会・面接会Ⅱ写真Ⅱは3月9日、大阪新卒応援ハローワークであり、176人が参加した。今回は人気の事務系職種。自動車部品や生活雑貨の専門商社、建設機械のレンタル、携帯電話事業など7社が集まった。

各ブースでは、人事担当者が会社の主力製品や業界の今後の動向、社風や求める人材像などを丁寧に説明した。チラシを見て参加したとい

う短期大学の女子学生は「3社の説明会を聞き、うち2社に応募した。内定は1社あるが、自分が納得できるまで就活を続けたい」。4年生大学の女子学生は「人事担当者の説明を聞き、会社の雰囲気も良さそうだと感じた。経営理念もしっかりしており、ぜひ応募したい」と話していた。

世界一、日本一の技術やシェア、独自製品などをもつ大阪の「ものづくり企業」21社が集結した「世界一・日本一企業集まる」大阪の中堅・中小企業を知る業界研究・企業



研究イベント」が3月5日

Ⅱ写真有。

水中ポンプの製造会社では「生活排水などみなさんの身

「就活後ろ倒し」悩まず来所を



業は快く受け入れてくれる雰囲気があります」「様々な企業を調べて自分のやりたいことをみつめてください」「日本のモノづくりはまだこれからです。一緒に日本の存在感を上げていきましょう」というメッセージが寄せられました。

の回りにも弊社の商品がたくさん使われている」と商品と技術力をアピール。鉄製や紙製のドラム缶を製造販売する産業用容器の総合メーカーのブースでは、参加した学生が実際に商品を手にして「意外と軽いですね」などと人事担当者へ話す姿も見られた。

就活中の若者に対して企業担当者からは「恐れずに自分の個性・オリジナリティをアピールしてください。中小企

「フレッシュ&若者のための合同企業面接会」は2月25日にあり、423人が参加。応募書類作成コーナーでは大阪新卒応援ハローワークのJSが個別相談や書類の書き方などを伝授Ⅱ写真上。アドバ

2月中旬以降から、3回生の新規登録も増えてきました。その3回生から就職活動時期が後ろ倒しになり、先輩と異なる就活となるため戸惑っている学生が見受けられます。今号では2月、3月に開催した「業界研究」や「企業説明会」の内容を掲載しています。他にも、ネット就活に頼らない就活方法等についての講演内容も掲載しています。就活を手探りでされている方には必見です！また、学卒ジョブサポーターに相談するのもポイントです。一度大阪新卒応援ハローワークにぜひ、お越しください。

学校事務職へ 諦めず志貫いて

わたしの就活日記 17

学内での広報スタッフが縁で大学の事務職員を目指す。だが、内定への道は険しかった。3度の最終面接はいずれも不採用。厚い壁が立ちちはだかる。「悔しくてもHWに足を運び続ける。諦めず夢をつかみたい」。その都度、自分に言い聞かせた。こだわり続け、やっとかなった学校事務職の仕事。その軌跡を振り返る。

◆就活はいつから始めたか。

3回生の12月だ。どんな仕事をするか悩んでいた。ただ、就活ナビを通じ、やみくもにエントリーすることは疑問に感じていた。私は慎重な性格。どこの企業でもいいから採用を一という風潮に、少なからず抵抗があった。

◆学生時代に熱中したことは。

大学広報室の学生スタッフとして学内外へのPR活動に打ち込んだ。A6サイズの冊子を作り、学生生活に役立つ身近な情報を発信した。地元商店街を取材したり、コートの上履きなど学生向けのマナー講座の記事を書いた。部員は80人の大所帯。広報室の職員は親身に接してくれる。そんな彼らの仕事ぶりを見て「どうしたら大学の事務職員になれるのか」。漠然とだが、考え始める。

◆本を読んだり、文章を書くことが得意だったとか。

国語が好きで作文が得意だった。小学時代の先生が素晴らしい方で、子どもの意見を否定せず、しっかりと受け止めてくれる授業だった。好きな作家は児童文学のあさのあつこさん。「ガールズ・ブルー」という作品に感銘を受けた。落ちこぼれだが、今を後悔せずに生きる。そんな生徒たちの物語だ。

◆あさのさんとはその後、大学で対談することに。

「作家と語る」という企画で、あこがれのあさのさんがゲストだった。喜んで対談のメンバーを引き受ける。あさのさんの物語は同性が一对になった主人公が多い。キャラクター作りの秘話も聞き出せた。広報スタッフの仕事もやりがいがあり、専攻である心理学の勉強も楽しかった。「あー、やっぱり学校っていいなあ。学生が楽しめる



場づくりに私も職員として関わりたい」。心からそう思うようになった。学校の事務職こそ、私が進む道だと。

◆だが、大学事務職の採用選考は、なかなかうまくいかない。

地元岐阜の大学事務職は、最終面接まで進んだのに結果は不採用だった。面接の出来も悪くなかっただけに、さすがに落ち込んだ。

◆大阪新卒応援ハローワークとの出会いは、その頃か。

そう。求人はたくさんあり、支援も手厚かった。担当してくれた女性のジョブサポーター（JS）に応募書類の書式を尋ねたら、瞬時に欲しいサンプルが私の目の前に出てきた。添削では、私の文章を大きく変えることなく、一緒に言い回しを考えてくれる。私の考えを否定せず、寄り添ってくれた。この人なら信頼できる。

◆その後も学校事務職の選考は最終面接まで行くが、依然、不採用が続く。

私の祖父や祖母、母の言葉がありがたかった。「人は必ず縁のあるところに行く」「やりたい仕事ができる場に行きなさい」と。不採用通知を受け取ったら「終わったことは終わったこと。次へ進もう。悔しくてもHWに足を運び続

広報スタッフの経験が縁、不採用の悔しさ JSと分かち合う

けよう」。自分にこう言い聞かせた。家族の前では涙を見せない私も、担当してくれたJSの前では泣いたり、気持ちのすべてを打ち明けた。まるで「就活の母」のような存在だ。

◆そして、念願の大学事務職に決まる。

「ここが最後だ」との気持ちで選考に臨む。仕事は入試課での広報情報業務だ。大学のHPにミュージカル調の動画があった。今までやってきた広報活動とミュージカルの舞台の経験が生かせると思った。面接では、ジャズダンスやミュージカルなど、これまで私が取り組



愛用したスマホとノート

んできた舞台の話を、初めて話すことができた。これまでの面接とは違うぞ。得意分野だったので一生懸命、私の思いを伝えたつもりだ。「『私のことを面接官に伝えたい』という君の熱意をひしひしと感じたよ。だから全員一致で採用を決めたんだ」。内定後に聞かされた。

◆就活を振り返って思う事は。

最終で不採用が続いても、周りがいいつも待っていてくれた。なんとかその思いに答えなきゃ。今は感謝の気持ちでいっぱいだ。仕事への強いこだわりから内定までとても時間がかかったが、自分の志を持ち続けることが大切だ、と分かった。諦めず走り続ける。これが一番の近道だ、と。

武庫川女子大学文学部心理社会福祉学科

4回生女性